

キャラクター名
百木 優理(もものき ゆうり)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ウロボロス	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプション		年齢	16歳	性別	男性
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	36 %
出自	疎まれた子	経験	トラウマ	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	1	0	0			1	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: UGN幹部					
コネ: 情報屋					

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
賢者の石(レネゲイドクリスタル)	P	N		
あの人	P 執着	N 不安		
立科沙紀	P 尊敬	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーバーワードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト(ウロボロス)	3	2	Xジャー	-	自身	自動	-	
効果:	組み合わせた判定のクリティカル値-[SL] (下限値7)							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	肉体を使用したエフェクトダイスを+(LV+2)個する。素手だけになる							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動できる。							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	素手のデータ変更、攻撃力[LV+8]							
知性ある獣	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	完全獣化中アイテムを使える。							
原初の赤(炎神の怒り)	1	3+1	Xジャー/リアクション	-	-	肉体	-	
効果:	HP-3消費、ダイス+[LV+1]個							
原初の白(氷の天使)	3	6+2	セットアップ	至近	自身	自動	80	
効果:	基本能力値を使う判定ダイスを+(LV×2)個する。1シナリオ3回まで。							
螺旋の悪魔	3	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果:	バッドステータス{暴走}付与。ウロボロス以外を組み合わせた攻撃の攻撃力を+(LV×3)する。							
イージーフェイカー	★	-	Xジャー	至近	単体	-	-	
効果:	栄養満点の水作れる。							
傍らの影法師	★	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果:	影の従者を出す。							

【今日の格言】
ミドルは我慢、カナデに煽り売って剣もろえ(調達を振る)

【性格】
度を越えた優しさ困ってる人をほっとけない

【経歴】
山の中にある小さな教会に拾われ育てられた。
ある日、同じ孤児の子と喧嘩をしまして大怪我を負わせてしまう。
子供には出せない大きな力を目の当たりにした教会の人間が気味悪がり悪魔の子として教会地下の牢に監禁することになった。
悪魔の子として拷問を受け罵詈雑言を浴びせられ続けた肉体と精神には大きなダメージを負った。
体力の限界が近づき意識が朦朧とした時、それは優理の前に現れた。
それは布切れを体全体にまとわせた男とも女とも取れない容姿と声で話しかけてきた。
「かわいそうな子。今にも壊れそうだ。そんな君に二つ選択肢をあげよう。」
「生きたい?死にたい?」
「生きれば辛く苦しい思いをするかもしれないし誰かに認められ幸せになれるかもしれない。」
「死ねば辛く苦しい思いをしなくて済むけどそこからは何も無い。」
「どちらを選ぶ?」
優理は死にたいと言いたかったが言葉が出なかった。喉を潰されていいたからだ。
だが言いたかった言葉とは裏腹に心の奥底で優理は望んでいた。誰かに存在を認められ愛されたいと。
それは喋れない優理の目を見て少し笑った気がした。